

XV 新型コロナウイルス感染症流行禍における職員のメンタルサポートチーム



2020年1月15日、新型コロナウイルス感染症の症例が日本において初めて確認された。以降、症例数は漸増し3月中旬には海外からの輸入例を契機とした流行がさらに拡大し、4月7日緊急事態宣言へとつながった。全国の医療機関において、当院と同様に感染症患者の受け入れや発熱外来の設置など、医療機関として感染症災害に対する活動が行われている。しかし、新型コロナウイルス感染症は潜伏期間が不明瞭であることや、無症状で感染する可能性、医療体制や病床の不足が報告され、国全体に大きな不安をもたらした。さらにはソーシャルメディアなどでの（誤）情報の氾濫という、独特な「情報伝染病、インフォデミック」が、危機的状況の中で、精神衛生に大きな危険をもたらしている[1]。これは現在においても持続した状況であり、恐怖と不確実性を懸念し、更に恐怖や不安により情報の誤認を招くといった感情的な負の連鎖反応が引き起こされている。企業の産業保健においても多大な影響を及ぼし、当院のような医療機関においては、従業員の健康維持・リスク回避の観点から、メンタルサポートを充実させる必要があると思われた。

このような事態を背景にして、2020年4月30日、保健管理センター、看護部、職員相談室、精神科神経科学講座の協力のもと、保健師1名（保健管理センター）、公認心理師1名（職員相談室）、精神科医兼産業医1名（精神科神経科学講座）、看護師2名（看護部）による「コロナ禍におけるメンタルサポートチーム」の設置に至った。医療機関という特性も踏まえて、心理的ストレスが大きいと予測される感染症患者の診療に携わる前線の医療従事者[2]のみならず、産業保健という観点・立場から当法人の全教職員を対象にメンタルサポートを行う目的で活動を続けている。

XV-1 新人看護師へのアンケート調査

調査内容は、第62回近畿産業衛生学会に、「若手看護師の新型コロナウイルス感染症の関連ストレスとレジリエンスとバーンアウトとの関連性」というタイトルで発表・報告を行っている。主な結果としては、相関分析において、コーピングとは、ワークエンゲイジメント ($p < 0.01$, $R = 0.53$) とレジリエンス ($p < 0.01$, $R = 0.31$)、バーンアウトとは、新型コロナウイルス感染症による心理的負荷 ($p < 0.01$, $R = 0.30$) とレジリエンス ($p < 0.05$, $R = 0.29$) の各項目間に正の相関を認めた。また、ストレスチェックの項目のうち、「仕事の意義」得点はワークエンゲイジメントと負の相関 ($p < 0.01$, $R = -0.32$) を認めた。さらに、構造方程式モデリングでは、図1のような関連が抽出された。

生活におけるCOVID-19感染症災害に伴う心理的ストレスが新人看護師のバーンアウトに影響を与え、さらに、バーンアウトが高まった際にはレジリエンスが高まると考えられる。これは、レジリエンスが、抑うつ状態や離職など、バーンアウトを起因とする状態への防御因子となっている可能性が考えられる。

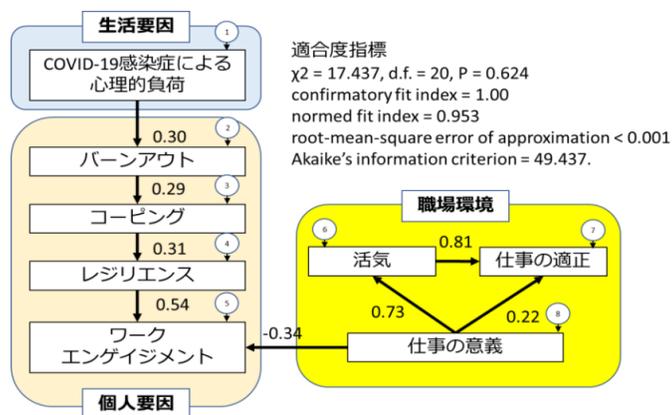


図1 構造方程式モデリング

XV-2 活動の基本方針

メンタルヘルスクアの啓蒙活動など、感染症対策に対応した一般的な産業衛生でのメンタルヘルス対策の拡充を活動の基本方針と据えた。

①全従業員に向け感染症災害時の健康維持活動、②管理職員に向け感染症災害時の職場での配慮事項、③未知の感染症からの心理的影響「3つの感染症」、④新型コロナウイルス感染症災害時における特有の心理的ストレスとその気づき、といった内容の情報を提供し、学内ネットに去年度より継続して掲載した。

個別対応が必要な教職員のことを考慮し、同時にコロナメンタルサポート相談室を設置した。ポスターを作成・掲示し、全職員に存在を通知した。職員が新型コロナウイルス感染症に罹患した場合や濃厚接触者になった場合には、利用の有無に関わらず「相談できる場所がある」と安心していただけると考えている。

XV-3 看護部との連携

当大学の看護において、病床配置の変更や新人研修自粛など、例年の看護業務に加えての心理的ストレスや、ピアサポートなどの支援内容の減少など間接的な影響も考えられた。そのため若手看護師をはじめとする看護業務への影響を考慮し、看護部との連携の中で新人研修や復職支援に関して情報交換・共有をはかっている。

XV-4 最後に

2023年5月より新型コロナウイルス感染症が5類相当に変更になることと、新型コロナウイルス感染症が流行りだした3年前の治療法・ワクチンもなかった状況とは違っているため、2022年度限りとしてチーム運営の取下げをお願い致します。これまでのチーム活動へのご支援・ご協力誠にありがとうございました。